

田村兼吉運航・物流系長が横国大で出前講座

当研究所運航・物流系の田村兼吉系長が7月3日、横浜国立大学の依頼により出前講座を行いました。小澤宏臣特任教授が担当している海洋産業特論という授業の1コマで、「海洋開発リスク管理概論及び深海艇実務総論」という内容です。大学院生がメインですが、学部学生、教師を含め20名以上が参加し、熱心に聴講しました。



聴講する学生たち

授業は、COSATA CONCORDIA号の事故、深海掘削の現状、メキシコ湾での石油流出事故、なぜ海洋開発にリスク評価が必要か、リスクとリスクマネジメントといった内容で、1時間半行われました。講義終了後には前週の講師を務めた海洋工学研究所の佐尾邦久所長も参加して学生との懇親会も開かれました。



田村系長

三鷹・第六中の生徒5人が2日間の職場体験

三鷹市立第六中学校の生徒5人が7月3、4日の2日間にわたり、当研究所で職場体験学習を行いました。当研究所が今年度、職場体験学習の生徒たちを受け入れるのは、6月の三鷹市立第二中學生(10人)に続いて二回目となりました。

生徒5人は女子生徒1人と男子生徒4人という組み合わせ。学習プログラムは前回と同様、1日2コマ(午前・午後)、2日間で計4コマの学習および実習で構成。プログラムは船と海のガイダンス(企画部広報)、「海と風が創り出すエネルギーの新時代」(洋上再生エネルギー開発系)、「船を操って目的地に向かおう一船の現在位置の求め方と海の交通ルール」(運航・物流系)の3コマに加え、今回は新たに「シミュレーションで解き明かす船の流れ」(流



授業風景

体設計系) という一コマを作り、その一環として氷海水槽ならびに400m水槽の見学を盛り込みました。

生徒たちは船舶・海洋にかかわる工学知識を学ぶだけでなく、実際にさまざまな研究施設に触れる機会がありました。「難しいところもあったけれど、先生がみな楽しく話をしてくれた」「二日間、科学技術の世界に触れただけでなく、いろんな施設を見ることができたのがよかった」という感想が聞かれました。

当研究所は、三鷹市をはじめとする近隣の自治体などと連携を進めており、各種研究施設や技術を生かした形で地域社会に貢献できるよう活動を展開しています。体験学習生徒の受け入れもその一環です。



生徒の皆さん